

## 「循環器病センター内科医撤退」否定せず

## 20年度・循環器センター内科医は1人に 病院局 交渉

組合の要求	経営管理課長の回答
・院内保育所の充実 ・受入れ年齢の拡大	入所資格は、がんセンター、こども病院は7歳まで、利用者は看護師のみ。循環器・東金は3歳、佐原4歳まで病院職員なら利用可能。各病院の意思を尊重し協議し前向きに検討していく。
・医師の定着・確保	・中身はまだ固まっていないが医師の処遇改善を検討している。給与の面、環境整備を進めたい。 ・千葉大との交渉は微妙である。後任医師の折衝はしばらく続く、4月以降にずれ込むこともある。医師が来ないのは困った事態。そうならないよう出来る手だてを考えている。
・育児短時間勤務 代替え職員確保	・現行と同様に各病院・所属で確保に当たるが、何らかの情報があれば課としても協力したい。全体の職員確保の中でやっていた方がいいのかと思っている。いろいろなことをふまえて年度当初に確保するようにはしている。

千葉大から県立病院に派遣されている内科医が今年度末で撤退する動きが強まっています。循環器病センターでは、一昨年六人、昨年三人いた常勤内科医が、今年一人になることが明らかになりました。理事課長は「病院長の意向が正式な引き上げ打診はないが、厳しいうれぎりに医師が確保しにくい状況にある」と回答しています。

この間、東金病院の内科医の大量退職を引き金に成東病院の縮小、山武地域の医療が崩壊する事態になっています。今回の事態は、循環器センターや佐原病院など地域医療を担う病院だけでなく、深刻な影響がでます。組合は、千葉大が内科医の引き上げを見直すとともに、県が医師の定着・確保に全力をあげてくれることを強く求めます。

# 組合、医師確保を強く要求!

みんなで誘い合って  
参加しましょう!

<今後の予定>

☆ 「成東病院独立行政法人化学習会」

1月20日(日)13時~15時半  
山武市成東下町公民館

☆ 「どうするこれからの医療」シンポジウム

医師・看護師増やせ、地域医療を守れ  
2月3日(日)10時~15時半  
千葉県教育会館ホール  
映画「シッコ」  
講演 日野秀逸氏(東北大学教授)

県は地域医療に責任を  
国は医師・看護師増やす政策を

医師・看護師不足は、千葉県に限らず全国的な問題です。この間、組合は県が地域医療に責任をもち、県立病院の医師・看護師を確保するよう要求してきました。また、国にも要求し国会決議をあげさせてきました。今年も県立病院の縮小にストップをかけ、住民の命を守り、住民が住み続けられる地域づくり、職員の皆さんが働き続けられる病院職場のために、多くの皆さんとともに運動をすすめます。よろしくをお願いします。

千葉県医療施設労働組合  
執行委員長 桐谷 加代子

